

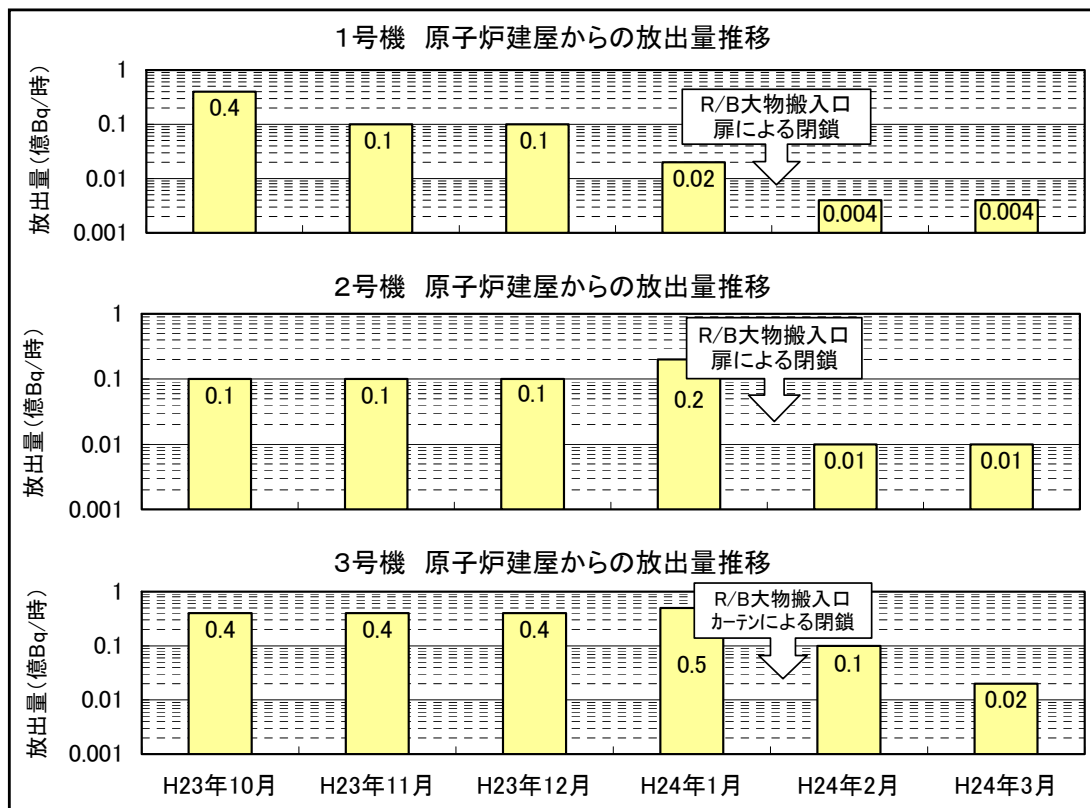
原子炉建屋格納容器からの追加的放出量の評価結果

○1～3号機格納容器からの現時点の放出量（セシウム）を、原子炉建屋上部等の空气中放射性物質濃度（ダスト濃度）を基に評価。（各号機の採取地点は別図参照）

○1～3号機の放出量を合計すると、先月と同じ約0.1億ベクレル/時と推定。

○先月と同様、放射性物質が舞い上がるような作業が行われていない状況で測定。また、大物搬入口も閉塞された状態が続いているため、先月公表時の約0.1億ベクレル/時から変化なしと評価。これによる敷地境界における被ばく線量は0.02mSv/年と推定。

○号機毎の推移については下記のグラフの通り低下傾向にある。

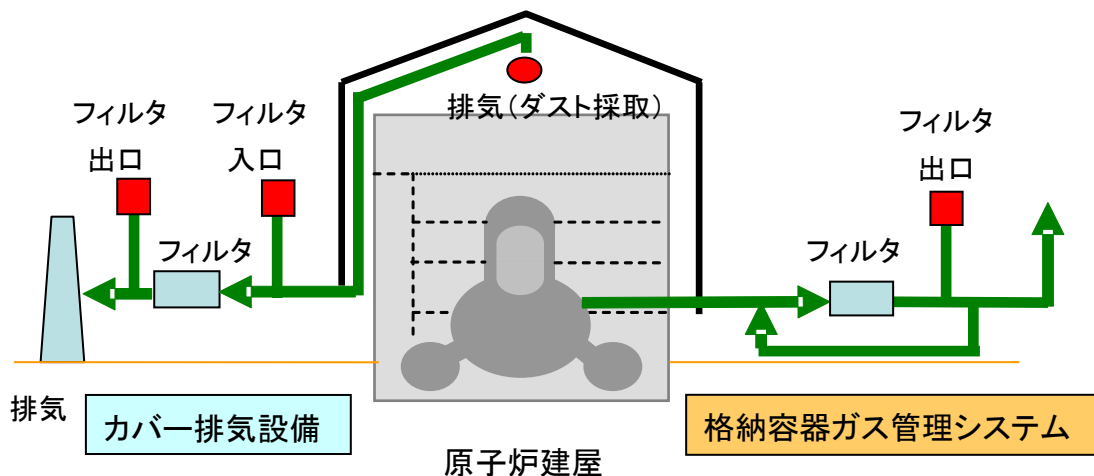


※ 放出量についてはCs134とCs137の合計値である

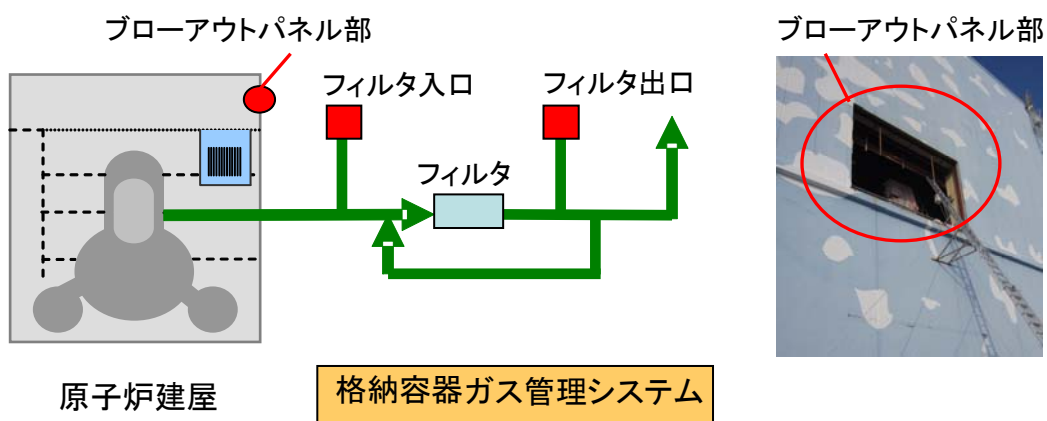
（備考）

- ・ 3号機において原子炉格納容器ガス管理設備の運転を開始しているため、当該設備からの放出量についても3月から評価している。
- ・ 希ガスについては、格納容器ガス管理設備における分析結果から放出量を評価しているが、放出されるガンマ線実効エネルギーがセシウムに比べて小さく、被ばく経路も放射星雲の通過による外部被ばくのみとなるため、これによる被ばく線量は、セシウムによる線量に比べて極めて小さいと評価している。

1号機のサンプリング設備概要



2号機サンプリング設備概要とサンプリング状況



3号機サンプリング概要

